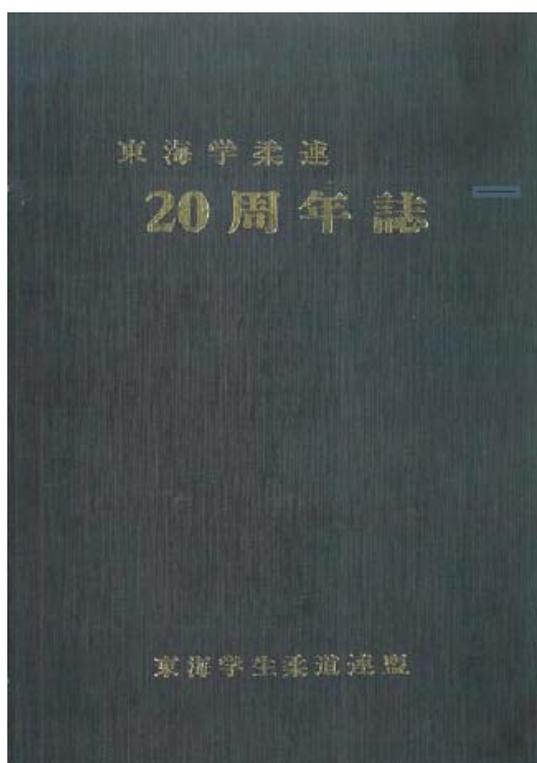


名古屋工業大学柔道部の記録

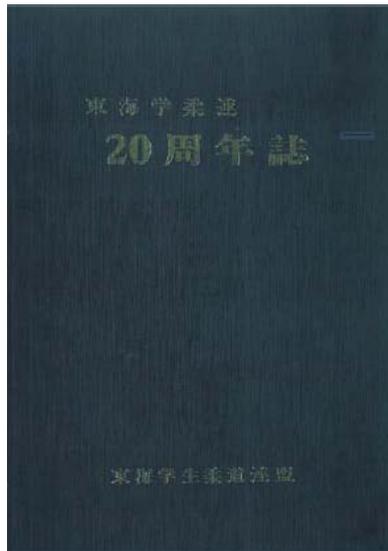


第1部：東海学柔連20年誌より（1954年度～1972年度）

第2部：柔道部文集「心技」より（1964年～1979年）

2012年7月

第1部 東海学柔連 20 年誌より



昭和 29 年度～47 年度の記録

目次

巻頭言 東海学生柔道連盟会長 米田 一平
連盟発足の経緯とその歩み

20 周年に思う 筒井 健市先生 (名工大)

柔道と私 犬塚 信悦 (愛知学芸大 39 年)

柔道に思う 白神 義裕 (愛知学芸大 40 年)

巴投げ 長谷川 優 (中京大 39 年)

思い出すこと 寺尾 英樹 (名工大 D38)

ワイワイガヤガヤの学生生活 真弓 雅彦 (名工大 Y41)

20 周年記念誌の編纂に寄せて 菊池 芳男 (名工大 Es48)

各大学柔道部のプロフィール(愛知大、中京大、名大、名工大、他)
試合記録 (戦績) 昭和 29 年度～昭和 47 年度

第1部 柔道部文集「心技」より



昭和 39 年～S54 年の記録

創刊号 (第 2 号と同じ) は原稿不明

第 3 号 (S40) 全文 (ガリバン刷りをワープロで再編集)

第 4 号 文集抜粋 (矢倉日出男)

第 5 号 抜粋 (堀内、辻、久野)、戦績

第 6 号 抜粋 (別れのことば、対話、浜本、先輩) 戦績

第 7 号 抜粋 (久野、加藤、佐納、岩佐)、戦績

第 8 号 抜粋 (岸田、池田、幹部紹介、鰐部)、戦績

第 9 号 抜粋 (別れのことば、池田、岩佐、川崎) 戦績

第 10 号 抜粋 (別れのことば、寺倉、折戸 他) 戦績

第 11 号 抜粋 (別れのことば、川崎、石黒)、戦績

第 12 号 (S49) 抜粋 (又井先生、卒業生、石黒、松本) 戦績

第 13 号 (S50) 抜粋 (卒業生、和田) 戦績

第 14 号 (S51) 抜粋 (OB12 名、前年の卒業生、小木曾) 戦績

第 15 号 (S53.3) 抜粋 (OB10 名、芳賀先生、卒業生、大前、小木曾他) 戦績

第 16 号 (S54.4) 全文 (又井先生、OB10 名、加藤、市川他) 戦績

※ S47 年度までの戦績、公式記録は 20 年誌に掲載

名古屋工業大学部誌の整理・編集にあたって

大学で柔道にどの程度打ち込んだか、人によって異なる。又井不二雄先生（故人）の熱意で出来上がった「東海学生柔道連盟 20 年誌」及び真弓雅彦君（Y41 故人）がスタートさせたと聞いている文集「心技」を通じて青春時代の懐かしい財産が残されている。

情報ツールが発達している今日、名古屋工業大学大阪支部のホームページに柔道部のコーナーを設けたので、記録を残して今後の若い部員に伝統を伝えることもコミュニケーションを図ることも可能になった。

昨年 12 月に関西地区在住の OB12 人が集まって、旧交を温めた。M22 卒で柔道の真髄を極められた岡野勝敏大先輩を囲み、昭和 39 年～昭和 46 年に卒業した者が、至福のひと時を心から楽しむことが出来た。

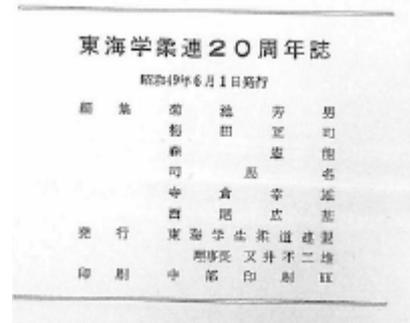
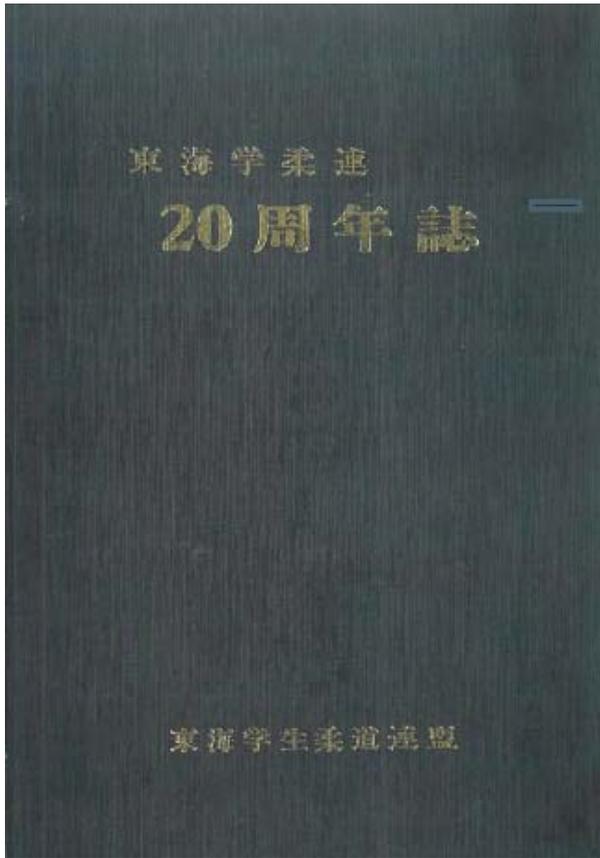
柔道は今年から、中学校などで正規の授業に取り上げられることになった。今後、これらの記録はさらなる価値を生み出すことになる。

まずは、第一歩として記録の整理をスタートさせたので、それぞれの年代で連絡を取り合って、少しずつでよいから、後に続いてくれることを願っています。

2012 年 7 月 10 日 山本泰三（M39 副主将）

東海学生柔道連盟

20周年誌



目次

寄稿文

東海学生柔道連盟の歴史とその歩み

新編 学生柔道の将来のために	沢 頼 三 (全日本学生柔道連盟)	三一
学生柔道の伝統	早 川 勝 (全日本学生柔道連盟)	三三
二十周年に思う	松 本 芳 三 (全日本学生柔道連盟)	三四
大同工業大学柔道部の歩み	高 井 健 市 (前東海学生柔道連盟)	三五
柔道と私	阿 知 彦 政 豊 (大同工業大学)	三八
思い出	一 野 賢 嗣 (東海学生柔道連盟)	三〇
一校社会に輝ける柔道	大 塚 信 也 (愛教大学)	四二
東海学生柔道によって	岩 崎 健 義 (中部養正)	四三
学生柔道について	柳 原 欣 志 郎 (名学院大学)	四五
懐旧の懐い	藤 田 正 志 (名学院大学)	四六
思い出によって	岡 野 正 義 (東海学生柔道連盟)	四七
柔道部	尾 関 昭 二 (東海学生柔道連盟)	四九
	川 瀬 正 一 (東海学生柔道連盟)	五〇
	木 村 泰 三 (中京大学)	五一
	高 川 正 (三重大学)	五三

無題	小林 秀 行 (名南大学)	五四
東海学生柔道二十周年に寄せて	小 松 日出雄 (東海大学)	五五
二十周年に思う	小 原 啓 治 (中京大学)	五六
東海学生柔道の在り方	東 倉 又 吉 (三重大学)	五九
柔道に思う	坂 井 謙 敏 (名古屋市)	六一
東海学生柔道連盟の新しい立ち	白 神 義 裕 (愛教大学)	六二
無題	杉 村 佳 徳 (南山大学)	六三
思い出	渡 村 佳 徳 (名南大学)	六四
名大柔道部の思い出	岡 崎 謙 一 (名南大学)	六六
無題	曾 我 立 己 (名南大学)	六七
無題	高 山 純 一 (南山大学)	六八
無題	松 崎 健 三 (名古屋大学)	六九
無題	田 中 秀 幸 (東海大学)	七〇
東海学生柔道に因する私の	高 橋 邦 彦 (東海大学)	七二
無題	竹 内 昭 夫 (南山大学)	七三
無題	坪 井 弘 光 (名古屋大学)	七五
柔道への心	山 田 三 三 (名古屋大学)	七六
思うままに	中 神 誠 (中京大学)	七七

各大学紹介	
愛知大学	一〇五
愛知学院大学	一〇五
愛知教育大学	一〇五
愛知工業大学	一〇六
岐阜大学	一〇八
岐阜経済大学	一〇九
盛学館大学	一一〇
静岡大学	一一一
大同工業大学	一一二
中京大学	一一三
中部工業大学	一一四
中経産大専門学校	一一五
中日本自動車短期大学	一一六
名古屋大学	一一七
名古屋経済大学	一一八
名古屋理科大学	一一九
名古屋学院大学	一二〇
名古屋工業大学	一二〇
名古屋国立大学	一二三

東海学連盟の思い出	野口昭虎	(愛知大学)	七九
岐阜大学学連盟のおもいで	藤部秀一	(愛知学連盟)	八〇
追想	長谷川孝一	(東海学連盟)	八二
巴夜	長谷川 優	(83年 中京大学)	八三
思い出	長谷川 大志	(中京大学)	八四
当時をふりかえって	藤部 突	(岐阜大学)	八五
東海学連盟	堀口文夫	(東海学連盟)	八七
思い出	松下忠行	(83年 愛知大学)	八八
無題	森田 尚	(三重大学)	八九
無題	森川 伸治	(名古屋大学)	九一
私と学連盟	安田 哲雄	(84年 愛知大学)	九二
学連盟道に期待すもの	山口 国一	(東海学連盟)	九四
無題	横井 富近	(中京大学)	九五
無題	吉名 直多賀	(東海学連盟)	九六
無題	力 富千蔵	(東海学連盟)	九七
思い出すこと	寺尾 英樹	(83年 名古屋大学)	九九
「ワイワイガヤガヤの学生生活」	真弓 雅彦	(84年 名古屋大学)	一〇〇
皇学館大学学連盟	増井 節郎	(皇学館大学)	一〇一
二十周年記念の編集に寄せて	菊池 芳男	(84年 名古屋大学)	一〇二

【注】以下の記事は編集者の判断による抜粋です。
寄稿分などについても、要約しています。

- 昭和 29 年度から 47 年度までの活動の記録である。
- ① 名古屋大学は筒井健市先生が第 3 代の連盟会長として、また、又井不二雄先生が理事長として、本誌の編集に尽力された。名古屋大学の菊池芳男さん(Es48)が、編集責任者として活躍されたものです。

試台記碑	
南山大学	一一三
三重大学	一一三
名城大学	一一四
昭和一九年度	一一五
昭和三〇年度	一一七
昭和三一年度	一二一
昭和三二年度	一二三
昭和三三年度	一二五
昭和三四年度	一二六
昭和三五年度	一二七
昭和三六年度	一二八
昭和三七年度	一二九
昭和三八年度	一三〇
昭和三九年度	一三一
昭和四〇年度	一三二
昭和四一年度	一三三
昭和四二年度	一三四
昭和四三年度	一三五
昭和四四年度	一三六
昭和四五年度	一三七
昭和四六年度	一三八
昭和四七年度	一三九
昭和四八年度	一四〇
昭和四九年度	一四一
昭和五〇年度	一四二
昭和五一年度	一四三
昭和五二年度	一四四
昭和五三年度	一四五
昭和五四年度	一四六
昭和五五年度	一四七
昭和五六年度	一四八
昭和五七年度	一四九
昭和五八年度	一五〇
昭和五九年度	一五一
昭和六〇年度	一五二
昭和六一年度	一五三
昭和六二年度	一五四
昭和六三年度	一五五
昭和六四年度	一五六
昭和六五年度	一五七
昭和六六年度	一五八
昭和六七年度	一五九
昭和六八年度	一六〇
昭和六九年度	一六一
昭和七〇年度	一六二
昭和七一年度	一六三
昭和七二年度	一六四
昭和七三年度	一六五
昭和七四年度	一六六
昭和七五年度	一六七
昭和七六年度	一六八
昭和七七年度	一六九
昭和七八年度	一七〇
昭和七九年度	一七一
昭和八〇年度	一七二
昭和八一年度	一七三
昭和八二年度	一七四
昭和八三年度	一七五
昭和八四年度	一七六
昭和八五年度	一七七
昭和八六年度	一七八
昭和八七年度	一七九
昭和八八年度	一八〇
昭和八九年度	一八一
昭和九〇年度	一八二
昭和九一年度	一八三
昭和九二年度	一八四
昭和九三年度	一八五
昭和九四年度	一八六
昭和九五年度	一八七
昭和九六年度	一八八
昭和九七年度	一八九
昭和九八年度	一九〇
昭和九九年度	一九一
昭和一〇〇年度	一九二

巻 頭 言



今回、学生諸氏、又井理事長、各大学の先輩OB諸氏、師範の諸先生の協力により、東海学生柔道連盟設立二十周年を記念して、昨年より総会にて決定直後編纂に着手せられ、かくも見事に発刊の域に達せられたことは、まことに慶賀に絶えぬものである。

思い起せば既に二十有余年前、当時の戦後の柔道は占領軍の圧力の下に、特に教育方面に於ては練習、試合共に従来の伝統の形式を変えて、スポーツ柔道の形をとらざるを得なくなり、戦前、戦中、戦後と徐々に之を行うものの精神と実施方法を変えて来た。

東海に於ては従来の高専、大学の学生数に比し、戦後の大学は激増し、合わせて学生柔道人口も甚だしく増加した。即ち、戦後学生柔道は始めからスポーツ柔道を基盤として発展して来たので、柳か戦前の柔道とは本質を異にし、それに参加し、亦発展させて来た学生諸氏の考え方も戦前、戦中の柔道家の精神や実施方法と柳か異なるところがあるのも当然ではあるが、矢張り日本古来の伝統的精神の特質は保存すべきものであると考えるのは私だけではないと思う。又すべてを世界柔連に白紙で適合する必要もなく、日本のそして東海の学生としての特長はいつまでも残しておきたいものである。

この書は戦後学生柔道の歴史のうち、東海学柔連の長い歴史を刻んだ大変貴重な記念碑と云える。又東海としての特長があり、之に大なり小なり関係したすべての者にとりよき思い出のアルバムでもある。長いページの間に刻まれたそれぞれの大学の柔道部の熱血と汗の歴史を見て感無量のものがある。

心に残る試合、大学の柔道場の青畳、汗にまみれて練習した若き日々、そして私共を導いていた驚いた師範、先輩OBのおもかげ、試合に出場したときの心のときめきと武者ぶるい、手に汗握る応援・・・頁を繰るに従ってなつかしい思い出が胸の中を去来する。

昔日の愛大の活躍ぶり、愛知学院大や名城大、名商大、名大の恋闘、そして中京大のすさまじい発展ぶり・・・

こうした柔道生活の思い出は大学卒業後の長い社会生活に於ても、私共の精神、肉体、気力のバックボーンとなっている。東海学柔連の歴史と伝統は、之に参加したすべての者が共に作り上げたものであり、私共もこの一部に参加し得たことに光栄を感じる。

この書を作り上げた学生、先輩諸氏に満腔の謝意を捧げるものであると共に、東海学柔連の今後の一層の発展を祈ってやまない。

東海学生柔道連盟会長

米 田 一 平

東海学生柔道連盟発足の経緯とその歩み

学校柔道の復活

昭和二十年十一月学校教育から戦時色を一掃する必要上、柔道は学校教育の濠外におかれたが、柔道本来の体育的価値と柔道愛好家の熱意は文部省の態度に反映され、昭和二十四年七月学校柔道に対する文部省の態度を連合軍司令部、C・I・Eに表示され、昭和二十五年五月天野文部大臣は学校柔道実施についての情願書を総司令部に呈出された。これに対し総司令部は昭和二十五年九月十三日付で学校柔道の実施を認めた。

文部省は同年十月十三日付文部次官通達で下記のように学校柔道の再開を宣した。

文部中第 500 号 以下省略

……東海地方に二つの連盟があったが、小異を捨てて大同につき、新しい東海学生柔道連盟が誕生したのである。

昭和 28 年 9 月 14 日

筒井 健市殿 又井 不二雄殿 学生委員殿

大蝶 美夫

(注)筒井健市先生は名古屋工業大学柔道部長をされていた。

二つの連盟を一本化するに当たっての経過記録

選ばれた委員によって、学生を主体とした教官先輩三身一体の案が作られ、各校へ流されて、意見を設せられる。

そして正案を得て、東海学生柔道連盟と話し合いをする。

学柔連側が学生委員のみならば、こちら等も学生委員のみで臨む、若し先方で先輩が入るなら、こちらも先輩（名工大の先躍）と教官（又井さん）に出ていただきたい、そして、その結果正案の線でまとまれば、今までのもの（東海学生柔道連盟並に、この度、出来ようとしつつある、東海大学柔道連盟）は共に発展的に解消して、新しく連盟を作る。

若し話し合がつかぬ場合は正案に基く連盟をこちら側のみで作る。以上のように記憶して居る次第であります。

中略

東海学生柔道連盟規約(設立昭和 29 年 6 月 7 日)

第一条 この連盟は東海学生柔道連盟と称する。

以下 略



二十周年に思う 筒井 健市 (名工大)

東海学生柔道連盟創設二十周年記念号を発刊するに当り、衷心よりお祝い申し上げます。

東海学生柔道連盟が発足して以来、すでに二十ヶ年の歳月を経ました。私は発足当初、初代会長勝沼精蔵先生の下で副会長としてその重責を職し、後に、勝沼先生突然の御逝去のため、また二代目会長中西栄作先生も思わざる御病気のため急逝され、三代目会長として非才を顧みず、その重責をお引き受けいたしました。その間約十八ヶ年、関係各方面からの絶大なる御鞭撻と御支援をいただき、会長、或は、副会長としての責務を果せましたことを深く感謝いたしております。

東海学生柔道連盟発足以来を回顧して、脳裡に浮かんだことは、数限りなく、尽きません。

第一に、私の知る限りにおいても、我が学柔連から輩出されている数多くの優秀なる人材が、学生柔道から得られた精神力と体力をもって、社会の第一線で大いなる活躍していることです。これらの諸氏は、学生時代柔道によって鍛練された柔道精神を無意識の中に具現されていられる結果だと信じております。柔道の良さは、数多くのスポーツの中でも、鍛練の最も激しい武道から生れたものだからと信じて居ります。

今日の社会の現況を見ても、民主主義、自由主義から陥り易い個人主義、自己主義、物質本位の物の考え方また、長上を敬する礼節の精神の欠除、意志薄弱者の抬頭、柔道精神とおよそ縁遠い者の多い世相にあることは、誠に遺憾とするところであります。

第二に、我が東海学柔連では、学者としては世界的な権威者であり、日本においては余りにも有名であった偉大なる勝沼精蔵名大学長が初代会長であったこと、然かも、先生は学生時代は柔道の選手であられ、学生柔道の発展に極めて強い熱意を持たれたことは、感銘深いことです。

第三に、各大学柔道部が、夫々、先輩各位と密接なる連絡をとり、我が東海学柔連は、恰も一つの大学の柔道部と思われる程に仲良く、親和の雰囲気溢れていたことは、何れの地区の学柔連にも誇りとしていたことであります。

第四に各大学柔道部から選出されている学生役員の諸氏が、学柔連のために尽力して下さった当時を思い出しますと、誠に感銘深いものがあります。それらの方々が、現在では、社会の第一線で重要な地位を占められ、大いに活躍・されており、誠に敬服に絶えません。

第五に、20ヶ年に渡る数多くの大会中において、最も賞賛すべきは、愛知大学柔道部の15年連続優勝だと思います。全く偉業であったとの外なく、戦後間もない、食生活にも不自由な時期から、逸早く柔道部を創設され、以来、連続十五回、一度の不覚をとったことのない団体優勝、到底常道の修練では果し得ないものだと思います。

最後に、現会長の米田一平先生は、学弱柔道界の先班として、柔道発展のためには極めて旺盛なる情熱をもっておられる方です。また、理事長又井不二雄先生は、創立当初よりの名理事長で、学柔連関係では凡ての事に渡って十分に承知され、理解されており、学柔連運営については、此の上ない適任者であります。私も学柔連発展のために、今後も出来る限りの御援助をいたしたいと願ひいたして筆をおきます。



柔道と私 犬塚 信悦 (愛知学芸大学昭和 39 年卒業)

道衣を身につけるようになって十七年、卒業当時は一日に一度は道衣を着ないと物足りない気でいたのが、十年目の今日”貧乏暇なし”に甘え、時間と意欲に欠け、週に一、二度がよい方になってしまった。学生時代に貯金した力(体力、スピード、久イミング、技、気力等)も使い果し、新めて蓄えねばと思う気持ちが先走る。こんな感じがするという事は、維持どころか、相当なマイナスを自覚したためだと身に染みて思う。

学校時代には大いに奨励もされ、活用もされる運動だが、卒業と同時に時間と機会に恵まれず、身の立場と忙しさに邪魔され、意欲の減退も加わって「する運動」から「見る、口の(批評する)運動」になりがちであり、健康保持の為の運動までペツタリと.....

常々そうなつてはと思いつつ、己もその中にいることに気がつく。そして、過去の自分を懐しむのみでなく、最高調の頃を唯一の心の拠所として、厚顔をブラサゲて人前に立つ卑しい自分になり下っているのではないかと反省する。老化現象も加わるから、ベスト・コンディションを持ち続けることは不可能だろうが、好きで始めた柔道を、自分の健康保持のためにさえできない自分が鵬甲斐無い。自分なりに精一杯やっていた頃は、柔道しか出来ないがシャクで他の運動、教義に努力し、「柔道マンガ」と言われぬように気をつけ、ルールに対する心機えも、道衣、畳のあつかいも人に強要したり、スピード、判断力の養成のため、寝起きの動作の無駄が無い様心掛けたりし、歩行者の足運びを見ながら、足払いのタイミングを捜し、段を必死でとり、その段にふさわしい実力をつけるために練習を重ねていたのに、今の自分はどうか、柔道を通して得た呼吸、堆察力、変身を悪用とまでゆかないまでも、身の楽な方に知らず知らず使ってしまったのではないだろうかと反省する。柔道家ではなく、真の柔道に対してすまない気持ちが心を痛める。二十周年記念において、この場を与えられる身を光栄に思うとともに、反省し、今後の生活にもう一度柔道をやつて来た、やっていますと言える自分になりたいと思う。一生やれる柔道、青春をぶつけられる柔道、誇れる柔道のため微力を注ぎたい。



柔道に思う 白神 義裕(愛知学芸大学昭和 40 年卒業)

暗くなった体育館の中で、久しぶりに生徒と一緒に汗を流した。「先生、跳腰が、きれいに決まったな」と三年生の選手におだてられ、「まだまだお前達には負けられない」と言いながらも好きな柔道が今だに出来ることを幸福だと感じている。

学連から思い出を依頼された時、大学時代の好敵手達は、現在どうしているだろうか、元気で活躍しているだろうか、とても懐しく思い出された。

愛学大柔道部穂きれいな試合運びをするので有名であった？ 犬塚先輩のもとに、三重へ、岐阜へと、よく試合へつれていってもらった。昭和三七年、二年生の時、東海、関東、北信越の一一学連対抗試合に埼玉県行田市まで遠征し、中堅で二勝一敗の成績で東海学連優勝に大きく役立つことが出来たこと。

昭和三八年冬季優勝大会では、岐大に敗れたが、初の二部準優勝を達成し、その上、優秀選手に選ばれたことが、一番の思い出として残っている。相手の掛札君は、今も頑張っていることだろう。

私自身、華々しい試合成績はないけれども、柔道の楽しさを若い中学生にも知ってもらおうと、今は、県の中体連の役員として、中学校柔道の発展のためにと頑張っている。

なかなか中学校は、場所やクラブの練習時間などに制約をうけて練習を、思う様に出来ないけれど、やがて自分のクラブ員の中からも、きっと日本的、いや世界的な名選手を育てるのだと今日も頑張っているのである。

(注) 東海学生柔道冬季大会(昭和37年12月16日)において、名工大は愛知教育大学と二部の決勝戦を戦った。この時のメンバーとして、犬塚主将と白神氏も出場したが、見事に名工大がはじめての優勝を勝ち取った。
写真は「かめや」での祝勝会で、優勝のトロフィーから美酒を飲んでいるところ。



巴投げ 長谷川 優 (中京大学 昭和39年卒業)

昭和三十八年度冬季大会において、過去十連勝の愛大と決勝の一戦を戦った出来事であった。学生生活最後の試合に、全精力を集中したといっても過言でない。緊張した試合に拍車をかけるかの様に、先峰から大将まで、引き分けの連続であり、息のつまる思いであった。決して引き分け戦法の指示が出ていたわけでもなく、貴重な一戦がこの結果をもたらした事と思う。代表戦となり、愛大は連戦錬磨の曲者の登場であった。この試合時間ほど長く、そして辛く感じたのを経験した藪が無かった。自分には、『負けてはならぬ、負けられぬ』ということが唯一の支えとなってくれた。二回目の代表戦には、中京大も誰が戦うか全く判らない状況であった。「誰にする」、「誰だ」という声がかすかに荒い息づかいの中に聞きとる事ができた。それを突き破るかの様に、現部長の一際高い声、「ハセガワ、イケ！」という熱のこもった励ましに闘志を駆られ、乱れた柔道衣を正して、最後になるかもしれない試合場へ向ったのでした。愛大のファイターは、

立礼をするや否や鷹のような鋭い眼差しで、つかみがかかるかのように奥襟を取りにきた。同時に私は、それを振り払うようにして体を後に捌いた。その一瞬. . . . 気のついたときは、主審の右手が高々と挙っているのを、横眼づかいに認めることができた。「邑投が決ったのだ、邑投が決ったのだ」といい聞かせながら. . . . 開始直後の波乱を詳しくは思い出せない。部の和とともに《私の記憶に残る学生生活の一駒であったように思います。

【注】愛知大学と中京大学とのこの激闘で、愛知大学の16連覇はならなかった。この年以降中京大学が東海の覇者に流れが変わったので、観戦していた身にも感動が伝わってきた。

思い出すこと 寺尾 英樹 (名古屋工業大学 D38 主将)



私が入学と同時に名工大柔道部に入った年は伊勢湾台風と安保闘争で世の中が騒がしくなり始めた頃でした。当時の私は、まだ頭の毛が伸びきっていない山嵐の様相をした純真なおのこであった。高校時代は勉学と柔道に一生懸命励んだ私も大学では年とった先輩と交わり、「大学は勉強する所ではない」等と悪い知識を植えつけられ、あつという間に勉学への情熱は急降下してしまっただけ。そうかと云って柔道の練習に身を入れたとは云えず適当にサボっていた。

しかしコン・〈には精勤し (今はあるかどうか. . . . あの頃今池の大提灯でしばしば飲んだ) そのお蔭で今でも酒は人並につきあえる様になっている。入部した当時は実力の差がありすぎたのか東海学生柔道大会では「怪我しない様にやれば良い」と先輩から云われて試合に出たものだった。日頃の練習はきつくなかったが合宿ではかなり厳しい練習を行ない食事もすぐには食べられない位の時もあった。

なんやかんやしているうちに三年生になり、「あやっは、ほっておくと練習をさぼるから、主将にして責任を持たせた方がいいぜ」と志村、森田先輩あたりが考えたのだろう。強くもないのに主将にさせられてしまった。こうなると根が真面目な男故同級生の協力を得て、なんとか一年間の責任を果たした。苦しい事もあったが、裸同士でつき合う柔道の男の世界は他にはない、いいものだと思える。今は少々腹が出て体がなまってしまっているのか、何か体を畳にぶつけ筋肉を「ビシッ」とひきっしたい衝動に時々かられている。

ワイワイガヤガヤの学生生活 真弓 雅彦(名古屋工業大学 Y41 主将)

私は社会人生活七年半になりますが、このたび学柔連の又井先生から「学柔連記念誌へお前の思い出を投稿せよ」との御指示を受け、この拙文を表わした次第です。私の学生時代を振り返る機会を得まして、私の脳裡に浮かんできたことは、「柔道部の連中と、酒を飲みながら、あるいは合宿場で、遠征旅行で何の憂いもなくワイワイガヤガヤと、過した日食」でした。

社会人になって、まず般初に教えられたことが「人間関係」のことでありました。しかし私達のように、毎日「柔道」というスキンシップの中で学生々活を送った者にとっては、不思議な位むつかしい「人間関係」でした。

私の時代の名工大は、私が二年生の時に創部以来（と先輩から聞いている）初めて優勝を経験しました。それは冬季東海学生柔道大会の二部優勝でした。岐大との優勝戦で、代表戦までもつれ込んだ試合でした。（たしか私は岐大の掛札君と試合をやって引き分けた記憶です。）数多くの優勝を経験されるチームには味わえない喜びを、この時に 私達は分ちあいました。この時以来わが名工大は学柔連以外の試合にも優勝を経験するチャンスがしばしば生まれました。このことは、私が母校に帰って後輩と話しをする時には、いつも私の自慢話しとして言うことです。こういう思い出は、人間として是非一つ位持っていたいものと思います。

私も現在では、女房と二人の子供を養う一家の大黒柱（？）となって、まずまず平穏な生活をしています。しかし学生時代、柔道を通じて知り得た友人、先輩、後輩との「ワイワイガヤガヤ」は、女房と云えどもその楽しさは理解してくれないでしょう。自分自分が、しみじみと後になって味わうものでしょう。現在楽しい学生を活を送っておられる後輩諸氏も、こういう私のような「思い出」作りに一生懸命と思いますが、大いに「現在」を大切にしてください。

乱文でとりとめのないことを述べましたが、私に学生時代の楽しい思い出を振り返る機会を与えて下さった学柔連の方左に感謝致します。

【注】 冬季東海学生柔道大会で二部優勝したのは昭和 37 年です。38 年は、岐大が優勝、準優勝は学芸大となっており、当時はそれぞれライバル意識が強かったことが偲べれます。

二十周年記念誌の編纂に寄せて 菊池 芳男(名古屋工業大学 Es48)



私が名学院で連盟学生幹事長の梅田さんから、編纂委員を引き継いだのは、昭和四十六年四月でした。それまで、名工大マネージャーとして、学柔連に関係していたので、二十周年記念誌については、多少の関心はありましたが、まさか私がそれを担当することになるとは思ってもみなかったもので、理事長の又井先生からご依頼を受けた時は、非常に惑いました。このような大規模な記念誌の編纂には、全く自信がなかったのですが、又井先生の熱心なご依頼と、連盟に何か役立つことができれば、という気持から、お引きうけした次第です。

ところで、私が引き継いだときは、梅田さんが各大学から集められた、これまでの大会の記録が、研究室の机に山積みされておりました。早速、又井理事長と記念誌の構想や、資金等について相談しましたが、この仕事がいかに大変なものかをつくづく感じさせられました。他に編纂委員を数名選出するよう各大学に依頼したところ、幸い中京大学の司馬名君、名商大の森君、名工大の西尾、寺倉両君がこころよく引き受けてくれてスタッフが揃いました。

先ず、集められた莫大な資料を、各委員が分担して整理し、記録の欠損を調べるとともに、別の用紙に清書するという非常にめんどろな仕事にとりかかりました。各委員は勉強や、自校柔道部の役員としても多忙でしたが、毎週事務所に会して、整理の進行状況や記録の不備な点等を報告し合い編纂をすすめていきました。これと平行して、より完璧な記録集にするために、各大学や先輩諸氏に手持ちの資料を提出して頂くようお願いし、不明な記録の収集にあたりました。

一方、寄稿文については、すでに幾つか寄せられておりましたが、二十周年記念誌にふさわしいものにしたいという主旨から、改めて関係者の方々にご寄稿を依頼しました。ようやく記録が大体まとまりましたが、なお発足当時の大会の貴重記録が紛失していたため、毎日新聞や中日新聞等を調べるとともに関係各方面に問い合せて、記録の補足に努めました。さらに、各大学から、OB名簿を提出して頂き、選手名に誤まりのないよう検討しました。一方寄稿文の方は、先輩諸氏が卸多忙のせいか、集まりが悪く、締切日を幾度も幾度も延期し、寄稿していただきました。ようやく記念誌について先輩諸氏の関心も高まり、少しご意見やご不満がありましたが、関係者、先輩諸氏の深い御理解により、事無きをえました。

その後、記録の点検や補充追加、さらに寄稿文の整理等にあたりましたが、私共の勝手により、予想以上に手間どり、遂に年を越すことになりました。年が明けると、経済界では物価の高騰がうわさされ出したため、印刷、製本等の資金について不安になり、昭和四十八年一月初めには、各大学のOB会長に御足労願ひ、改めて記念誌の主旨を説明し、ご理解願うとともに御強力をお願い致しました。然し私は昭和四十八年三月大学を卒業しましたので、不本意ながら西尾、寺倉両君に引き続き編纂してもらうことになったわけです。

その後この四十八年の一年間両君の多大な努力と熱意によってここに発刊の日をみるに至ったことを聞き、非常にうれしく思います。発刊が頭初の予定より大幅に遅れましたが、関係各位のご協力に感謝いたします。

各大学柔道部のプロフィール

愛知大学

敗戦後の混乱した世相の最中に、上海同文書院、台北帝大、京城帝大等の教職員、学生は、内地に引き揚げ、昭和二十二年、豊橋の地に我愛知大学を創設し、翌年四月、我柔道部は柔道同好会として発足した。その後、昭和二十四年の東三河柔道々場対抗試合での優勝を初めとして、昭和二十七年より再開された東海学生柔道優勝大会に於ては、初年度から十五ヶ年連続優勝という偉業を達成した。

また、全日本学生柔道優勝大会に出場すること十七回、東京、関西各学柔連にも劣らずリーグ戦を勝ち抜き、トーナメント戦にまで進出しました。同大会での試合ぶりは、学生柔道史に長く残るものであります。

東海学生柔道連盟が二十周年を迎えた今、今度は我々現役の者が、柔道及び連盟の発展のために、力は及ばぬかもしれないが、尽そうではないか。学柔連の一角にあって、我柔道部も力を尽くし、先難諸氏に一步でも近づくように努力しております。

愛知学院大学

数も少なく、有段者はわずかに二、三人程度の貧弱なものでした。三十二年に、わずか四十畳程の小さなものでしたが、道場が出来、その頃になると部員の数は充実して来ました。道場が完成し練習が思うように出来るようになったためか、試合での成績が良くなったのです。当時シード技であった三重大学を敗り、初めて二位になったのもその頃です。それ以来、我が部は常にシード校として今日まで来ています。

我が部が始めて全日本大会に出場したのは、昭和三十八年の第十二回大会でした。その時の諸先誰の喜びは、ひとしおのものだったと思われまます。

愛知教育大学

わが愛教大柔道部は今年でOBも二十一回生を教えるに至りました。その間あまり恵れているとは言えませんでした。大学が岡崎分校と名古屋分校に分れていて同じ大学のクラブなのに伴に練習出来るのは試合前のみでした。平生は別々にしかも少人数でしか出来なかったのです。ところが最近になり分校が統合され柔道部もまとまりました。

しかし武道館が出来たのはそれから二、三ヶ月後でそれまで練習は体育館に畳を二十枚程敬いで行いました。その後三年現在では立派な武道館が在り二人の良き指導者に恵まれそして部員も十五名程に、なりました。二人の先生が赴任される以前は賞状とは縁が薄く変色した賞状があるのみでした。最近では先生のコーチが功を奏し部員の力も除々に付き一昨年東海学生冬季大会では準優勝、昨年講道館での全国国立柔道大会では、準決勝で東教大に破れ第三位にとどまりました。そして今年もと練習に励んでおります。

岐阜大学

どの部についても言える事だが、部を成り立たせている以上、人間関係が非常に大きなウエイトを占めると思う愛すれば退部する理由には、この人間関係、つまり、人と人との多くの誤解によるもの、また、部への各自の関心、或は、考え方の相違などが主であろう。

やはり、クラブに対する考え方という、クラブをやっている以上、少しばかりの自由を犠牲にしなければならない事はやむをえないであろう。部員となった以上、部の運営に協力しなければならないのは当然であろう。部にはいついて自由な事をする者がいれば、それが連鎖反应的に、他の部員にも影響を及ぼすのは明白である。

やはり、部員である以上部に対する責任の一翼を担っているのだという自覚が必要だと思う。柔道が好きだから、ただ一生懸命に練習にだけ励むという者もいるだろう。しかし、一旦、クラブに入部した以上は、「練習だけ」に励み、クラブ全体で何かをやろうという時に、参加せずでは、部のまとまりがなくなってしまうであろう。

だから、私は、部員全員が柔道を愛する事はもちろん、それ以上に、部を愛する人であってほしいと思う。部を愛すれば必然的に後輩を愛する事に、また、同級生はもちろんの事ながら、先輩も愛する事につながると信ずる。

静岡大学

我々、静岡大学柔道部は、部員数四十余名、毎日青い畳の上で練習にはげんでいる。柔道場は体育館の一階にあり外部の人間で初めて道場に入る者は、大抵そのあまりの広さに目をみはるものである。実に二百三十一畳。これほどの広さをもった道場は、そうたやすく見つかるものではないだろう。

我々が自慢できるのは、柔道部が全く民主的に運営されていることである。とかく運動クラブにありがちな封建的気風は微塵もない。道場の清掃も部員が一丸となって行なうことにしている。とはいっても、上級生に対する下級生の礼節というものが忘れ去られたわけではなく、当然それは、人間関係の根底をなすものとして重視される。そして民主的運営の基礎として、週一回開かれる部会がある。部会において、部員の協議を通して、柔道部の活動方針が決定される。いわば、部会は国会のようなものである。そして、なるべく部員に柔道部員としての自覚を持たせるために、一人一人に役員を与えることにしている。

中京大学

青山講堂を仮設道場として同好の士が集まり、呱呱の声をあげたのが昭和三十一年のことであった。昭和三十四年四月、体育学部創設にともなって明道館道場が新築され、専任教授長谷川泰一、八段を部長に迎え、部員一同の意気は燃えた。明道館柔道場開きには、南山大、岐阜大との招待試合が行われたが、その成績は惨たるもので全敗であり、Cクラス脱出に懸命の状態であった。

昭和三十六年頃には、部員も常時二十数名をかぞえ、練習も本格化し、東海大会試合成練も予選通過の段階にこぎつけ、中京大学柔道部の存在も漸く認められるようになった。

昭和三十七年からは、全日本学生柔道大会に東海代表として駒を進めることになったものの、宿敵、愛大には勝つことが出来ず、東海大会には第二位にあまんじなければならなかったが、「打倒愛大」を目標に全部員が一丸となって琢磨し、猛練習に明け暮れた部員の悲壮感は並をならぬものがあった。昭和三十八年の冬季大会には、愛大と代表戦三回の末、劇的勝利を獲得し、ついに宿願達成、全員感涙にむせんものでした。

来季には、待望の大道場（四百畳）が完成をみ、体育学部武道科の教員養成と相まって、八十余名の部員を擁する大柔道部となり、質、量ともに年々充実し、東海の優勝に甘んずることなく全国制覇の夢に全員一丸となって精進を続けている。

名古屋大学

昭和二十四年、旧八高柔道部の諸先輩方が中心となって、八高柔道部が再現した。当時、川瀬、渡辺、後藤、曾我の諸先輩が指導に来てくださっていた。二十七年には、名大柔道部と改まり、道場も経済学部に移った。そして、三十年、滝子に移り、大溪正春氏を師範として迎えた。三十九年、不老町（現名大キャン・〈ス〉）に移るまでの間、三十六年からは永田正明氏、三十七年からは岡野好太郎氏に、師範に来ていただいていた。四十二年に岡野先生が他界された後、四十三年から、高橋邦郎、小坂光之介の両氏を新しく師範として迎え、四十五年には新道場の建設も成って現在に至っている。名大柔道の特色は、何と言っても、やはり寝技にある。我が部の場合、大学に入ってから柔道を初める者が多く、また、体力的に恵まれぬ者が多いため、短期間で上達でき、努力すれば必ず報われる寝技に頼る訳である。合宿のミーティングなどの場で、寝技に重点を置き過ぎていることが、しばしば論議的になったが、やはり、今も寝技中心の練習をしている。しかし、東海で一部の座に頑張っているのも、この寝技に負う所が大きいようである。

現在、我が部の大きな悩みの一つとして、部員数の少ないことがある。これは、他の運動クラブにも見られることであるが、毎年、入部者数が減少していて、途中で止める者も多いのである。練習は、平日は毎日やっているが、出席者が少ないため、余り熱が入らず、近年では、本格的寝技をする者も見られなくなった。このままでは、名大柔道部廃止なんてことにもなりかねない。なんとか、新入生を多く勧誘して、名大柔道の再興を謀りたいと考えている。

名古屋工業大学

柔道を愛し人を愛する人の集合体が、我が名工大柔道部である。我が部の目標は、柔道精神の体得と、人間的つながり「人の和」を探求することとしています。精神を体得するために、勝つことを目標の二次的手段として、一にも二にも練習に打ち込み、個々の体力に合った進歩を達成できるように練習計画を立て、技と精神をその積み重ねにより体得し、より前進し、ある時は停滞して悩み苦しんで柔道部を運営しています。同時に、部員間の相互信頼等の人間的つながりをその中で育み、部を大学生生活の拠所とし、ある時は苦しみの場として、部活動が学生生活の中に大きな位置を占めるように望んでいます。

この目標は永年に渡る部の歴史により確立されたものである。部の歴史は、戦前をたどると定かではないが昭和初期には、すでに活動が始められ、戦後、G・H・Qによる武道禁止命令により消滅するまで続き、幾多の先輩が育っていた。戦後二十七年に先輩有志数名を中心に、現在も部長であられる筒井先生によって再建されました。その時に現在の部の組織の大要が先輩諸士の意見、相談により決定された。部の組織の特徴としては、他の大学とは多少異なり、部活動は三年までとし、四年生は顧問的立場で助言するに止まり、三年生が中心となって部を運営しているということです。

我部を巣立った先輩諸誌は、実社会において着々と確たる位置を占めるに到り、現役部員の励みとなっています。先輩諸士との交流は、毎年発行している「心技」という部集により行なっており、そのつど御指導を願っている次第です。現在、部員数二十数名で、すべての大学に言えるように、漸減に苦しんでいます。部員には、大学に入り、初めて柔道を志さず者が三分の一近くおり、その指道は難しく悩んでいる点でもあり、我が部の一つの特色でもあります。しかし、初めて志ざした者も、卒業するまでには練習の厳しさ、人間的関係を克服して、少なからず柔道精神を身に付けて巣立って行きました。この点に我が部は重きを置き、部長筒井先生、顧問又井先生との連絡を密にして悩み苦しんで一步一步前進すべく主将を中心に部を運営して行こうと思っています。

三重大学

三重大学柔道部は、その前身である三重高等農林専門学校柔道部に源を発し、戦前は数々の輝かしい戦績を残した。戦後は、新制大学の第二回生を中心に三重大学柔道部として復活せられ、その後、第一回総体に優勝した。当時は山中良一師範、小柳弥部長で、道場は上浜地区の農学部校舎に隣接して建てられていた。その後、山本富男師範を迎え教官の猿丸勝晴氏を部長に迎えた。大学統合のため、体育館と併設して新道場が設けられへ現在に至っている。

我校の行事のひとつに寒中水泳があり、これは例年一月十五日の成人の日に行なっており、講道館の鏡開きにちなんで、水泳後、ぜんざいを食べるものです。寒中水泳希望者の来訪を歓迎致します。 ■

※この公式記録は、名工大の「心技」より性格と考えられる。

試合記録

昭和29年度

加盟校

愛知学院大学	1月26日	第1回東海学生柔道冬季優勝大会
愛知学芸大学	6月13日	第1回東海学生柔道夏季優勝大会
岐阜大学	7月4日	第3回全日本学生柔道優勝大会
静岡大学	11月13日	第6回全日本学生柔道東西対抗試合
名古屋工業大学	11月14日	第6回全日本学生柔道選手権大会
名古屋商科大学		
名古屋市立大学		
南山大学		
三重大学		
三重県立大学		
名城大学		

行事内容

日時 昭和29年1月26日
場所 名古屋鉄道局笹島道場

優勝 岐阜大学
準優勝 県立三重大学
第三位 国立三重大学
名古屋工業大学

準決勝

岐阜大 4 — 3 国三大
県三大 3 — 2 名工大

第1回東海学生柔道夏季優勝大会
第3回全日本学生柔道優勝大会東海予選

日時 昭和29年6月13日
場所 岐阜大学芸学部道場

優勝 愛知大学
準優勝 名城大学
第三位 南山大学

名工大

栗本 謙
荒川 俊夫
田中 幹二
中根 芳弘
田原 敬造
村橋 嘉一郎
星野 幸市
宮口 真英
佐藤 三

名工大

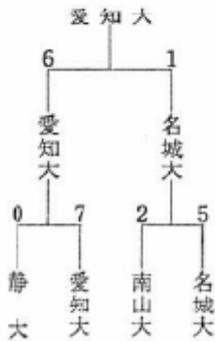
栗木 謙
中根 芳弘
徳永 好美
村橋 嘉一郎
浅井 保
山口 国男
佐藤 三
田中 幹二
深谷 雄策

予選リーグ

3	2	1	
名城大	愛知大	名工大	名工大
△	△	△	△
△	△	○	○
△	○	△	△
3	2	1	順位

3	2	1	
南山大	名工大	名城大	南山大
△	△	△	△
△	○	○	○
△	○	△	△
3	2	1	順位

決勝トーナメント



昭和30年度

加盟校

愛知学院大学	名古屋市立大学
愛知学芸大学	名古屋商科大学
岐阜大学	南山大学
静岡大学	三重大学
名古屋工業大学	三重県立大学
名城大学	名城大学

行事内容

1月30日 第2回東海学生柔道冬季優勝大会
6月5日 第2回東海学生柔道夏季優勝大会
7月14日 第4回全日本学生柔道優勝大会
9月13日 国際親善 日・米対抗柔道東海大会
11月12日 第7回全日本学生柔道東西対抗試合
11月13日 第7回全日本学生柔道選手権大会

第2回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和30年1月30日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 名城大学
第三位 南山大学

予選リーグ

○南山大	(代表戦)	岐阜大
○愛知大	(8人残)	三重大
○三重大	(8人残)	愛学大
○愛知大	(6人残)	愛学大
○静大	(8人残)	名市大
○三重大	(7人残)	名市大
○静大	(1人残)	三重大
○名城大	(4人残)	名工大

名古屋工業大学

栗本 謙 村橋 賢一
中根 芳宏 田中 幹二
徳永 好美 小出 雄策
浅井 保 深谷 雄策
村橋 嘉郎 山口 国男

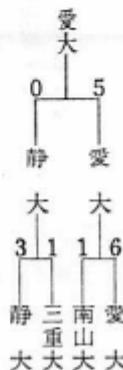
第2回東海学生柔道夏季優勝大会

予選

日時 昭和30年6月5日
場所 愛知大学豊橋本校大講堂

優勝 愛知大学
準優勝 静岡大学
第三位 三重大学

決勝トーナメント



予選リーグ

4	3	2	1	
学院大	三重大	名城大	愛知大	学院大
△	△	△	△	△
△	△	○	○	○
△	○	△	△	△
4	3	2	1	順位

3	2	1	
南山大	南山大	南山大	南山大
△	△	△	△
△	○	○	○
△	○	△	△
3	2	1	順位

3	2	1	
三重大	三重大	三重大	三重大
△	△	△	△
△	○	○	○
△	○	△	△
3	2	1	順位

名古屋工業大学

渡辺 良彦 山口 国男
鈴木 英資 深谷 雄策
佐藤 三三 村橋 賢一
田中 幹二 浅井 保
坂口 文雄 村橋 嘉一郎
金子 昭光

昭和31年度

加盟校

- 愛知大学 名古屋工業大学
 - 愛知学院大学 名古屋商科大学
 - 愛知学芸大学 名古屋市立大学
 - 岐阜大学 南山大学
 - 岐阜医科大学 三重大学
 - 静岡大学 三重県立大学
 - 名古屋大学 名城大学
- (以上14校)

第3回東海学生柔道冬季優勝

日時 昭和31年1月22日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 名古屋大学

準決勝

愛大 (4人残) 三重大
名大 (1人残) 静大

- 名古屋工業大学
- 村橋 嘉一郎 山口 国雄
 - 浅井 保 野々口 昌博
 - 深谷 策 沢田 良次
 - 小笠原 博
 - 川出 勝美 渡辺 良彦
 - 大須加 文雄 金子 昭光
 - 坂口 文雄 金子 昭光

行事内容

- 1月22日 第3回東海学生柔道冬季優勝大会
- 6月3日 第3回東海学生柔道夏季優勝大会
- 7月8日 第5回全日本学生柔道優勝大会
- 10月20日 第1回東海対北信越学生柔道対抗試合
- 11月10日 第8回全日本学生柔道選手権大会
- 11月11日 第8回全日本学生柔道東西対抗試合

第3回東海学生柔道夏季優勝大会
第5回全日本学生柔道優勝大会東海予選

日時 昭和31年6月3日
場所 愛知大学豊橋本校大講堂

優勝 愛知大学
準優勝 名城大学
第三位 岐阜大学

予選リーグ

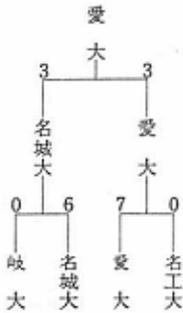
3	2	1	
岐阜大	名古屋市大	名工大	A
△	△	④	1
△	△	④	2
△	△	④	3
△	△	④	順位
△	△	④	順位

4	3	2	1	
学芸大	名大	静大	愛大	B
△	△	△	1	
△	△	△	2	
△	△	④	3	
△	△	④	4	
△	△	④	順位	
△	△	④	順位	

準決勝

- 高木 愛大 7-0 名工大
- 岡田 静大 〇〇 名工大
- 磯田 静大 〇〇 名工大
- 沢田 静大 〇〇 名工大
- 橋田 静大 〇〇 名工大
- 岩野 静大 〇〇 名工大
- 平野 静大 〇〇 名工大

決勝トーナメント



三位決定戦

- 小森 大 4-0 名工大
- 中垣 大 〇〇 名工大
- 古田 大 〇〇 名工大
- 杉野 大 〇〇 名工大
- 酒井 大 〇〇 名工大
- 藤井 大 〇〇 名工大
- 大熊 大 〇〇 名工大

昭和32年度

加盟校

愛知大学 名古屋市立大学
 愛知学院大学 名古屋商科大学
 愛知学芸大学 南山大学
 岐阜大学 中京大学
 岐阜薬科大学 三重大学
 静岡大学 三重県立大学
 名古屋大学 名城大学
 名古屋工業大学 (以上15校)

行事内容

1月20日 第4回東海学生柔道冬季優勝大会
 6月9日 第4回東海学生柔道夏季優勝大会
 7月7日 第6回全日本学生柔道優勝大会
 10月20日 第2回東海対北信越学生柔道対抗試合
 11月9日 第9回全日本学生柔道東西対抗試合
 11月10日 第9回全日本学生柔道選手権大会

第4回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和32年1月20日
 場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
 準優勝 名城大学
 第三位 三重国立大学
 静岡大学
 予選リーグ
 Aブロック
 愛大 2勝
 名大 1勝1敗
 名商大 2敗

Bブロック

静大 2勝
 南山大 1勝1敗
 名工大 2敗

Cブロック

名城大 2勝
 愛学大 1勝1敗
 三興大 2敗

Dブロック

三重大 2勝
 岐大 1勝1敗
 名市大 2敗

第4回東海学生柔道夏季優勝大会

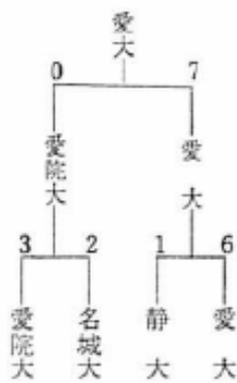
日時 昭和32年6月9日
 場所 岐阜市民センター

優勝 愛知大学
 準優勝 愛知学院大学
 第三位 名城大学
 静岡大学

予選リーグ



決勝トーナメント



名古屋工業大学

小笠原博光 金子昭光
 野々口昌男 前田隆
 鈴木英資 真弓勝信
 川戸英根 長谷川淳一
 沢田欽次 下力洋
 深谷雄策

昭和33年度

加盟校

- 愛知学院大学 名古屋市立大学
- 愛知学芸大学 名古屋商科大学
- 岐阜大学 南山大学
- 静岡大学 三重大学
- 名古屋工業大学 三重県立大学
- (以上14校)

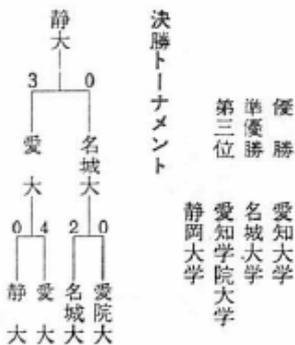
行事内容

- 1月26日 第5回東海学生柔道冬季優勝大会
- 6月7日 第5回東海学生柔道夏季優勝大会
- 6月8日 第1回東海学生柔道段級別選手権大会
- 7月6日 第7回全日本学生柔道優勝大会
- 10月12日 第3回東海対北信越学生柔道対抗試合
- 11月8日 第10回全日本学生柔道東西対抗試合
- 11月9日 第10回全日本学生柔道選手権大会

第5回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和33年1月26日
場所 愛知県スポーツ会館

決勝トーナメント



予選リーグ

4	3	2	1	
名工大	愛芸大	岐大	愛院大	
△	△	△	○	1
△	△	○	○	2
△	○	○	○	3
○	○	○	○	4
4	3	2	1	順位

- 鈴木 英 二 佐 伯 義
- 川戸 木 村 勝 夫
- 沢田 欽 次 勇 勳
- 前田 豊 田 村 勝
- 金子 光 加 藤 宏
- 長谷川 一 高 柳 武 史
- 下谷 淳 松 本 勝
- 桜井 章 右

名古屋工業大学

4	3	2	1	
学院大	南山大	三工大	名工大	
⑦	⑥	④	①	1
④	③	△	△	2
⑤	△	△	△	3
△	△	△	△	4
1	2	3	4	順位

決勝トーナメント



日時 昭和33年6月7・8日
場所 静岡商業高校体育館

- 第5回東海学生柔道夏季優勝大会
- 第7回全日本学生柔道優勝大会東海予選
- 第1回東海学生柔道段級別選手権大会

- 桜井 名工大 1-4 三重大学 小原
- 岩田 名工大 0-7 学院大 水門
- 佐伯 名工大 0-7 学院大 加藤
- 村上 名工大 0-7 学院大 吉田
- 吉村 名工大 0-7 学院大 伊藤
- 加藤 名工大 0-7 学院大 伊藤
- 長谷川 名工大 0-7 学院大 伊藤
- 鈴木 名工大 0-7 学院大 伊藤

- 桜井 名工大 1-5 南山大 伊藤
- 佐伯 名工大 0-5 南山大 福島
- 村上 名工大 0-5 南山大 水谷
- 吉村 名工大 0-5 南山大 後藤
- 加藤 名工大 0-5 南山大 寺島
- 長谷川 名工大 0-5 南山大 高松
- 鈴木 名工大 0-5 南山大 白柳

昭和34年度

加盟校

- 愛知学院大学 名古屋市立大学
 - 愛知学芸大学 名古屋商科大学
 - 岐阜薬科大学 名城大学
 - 静岡大学 中京大学
 - 名古屋工業大学 三重県立大学
- (以上15校)

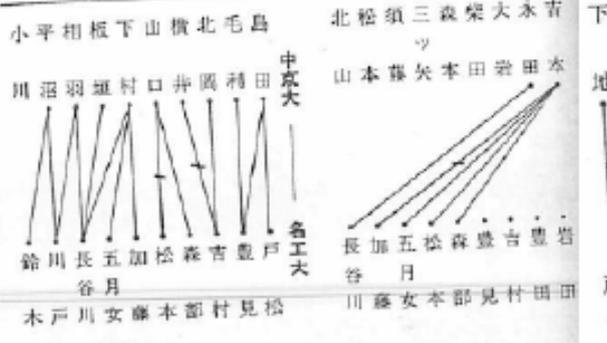
行事内容

- 1月15日 第6回東海学生柔道冬季優勝大会
- 6月6日 第6回東海学生柔道夏季優勝大会
- 6月7日 第2回東海学生柔道段別選手権大会
- 7月5日 第8回全日本学生柔道優勝大会
- 10月 第4回東海対北信越学生柔道対抗試合
- 11月14日 第11回全日本学生柔道東西対抗試合
- 11月15日 第11回全日本学生柔道選手権大会

第6回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和34年1月25日
場所 愛知県スポーツ会館

- 優勝 愛知大学
準優勝 名城大学
第三位 静岡大学
愛知学院大学



決勝戦

愛知大 (勝) (五人残) 名城大 (負)

準決勝

愛知大 (勝) (七人残) 静岡大 (負)
名城大 (五人残) 愛院大

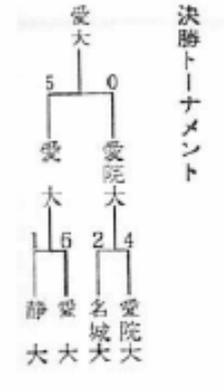
予選リーグ

3	2	1	
名城大	中京大	愛院大	名城大
○	△	○	△
○	○	○	○
○	○	○	○
△	△	△	△

第3ゾーン



1	2	3	4	
名古屋市大	岐阜大	岐阜薬科大	静岡大	順位
△	○	○	○	1
△	△	△	○	2
△	○	○	○	3
△	△	△	△	4
4	2	3	1	順位



第6回東海学生柔道夏季優勝大会
第8回全日本学生柔道優勝大会東海予選
第2回東海学生柔道選手権大会
日時 昭和34年6月6日7日
場所 三重大学柔道場
優勝 愛知大学
準優勝 愛知学院大学
第三位 静岡大学
名城大学

昭和36年度

加盟校

- 愛知学院大学
- 愛知学芸大学
- 岐阜医科大学
- 静岡大学
- 名古屋工業大学
- 名古屋商科大学
- 名古屋国立大学
- 南山国立大学
- 名城大学
- 中京大学
- 三重大学
- 三重県立大学
- 中部学整専門学校
- (以上15校)
- (特別参加)

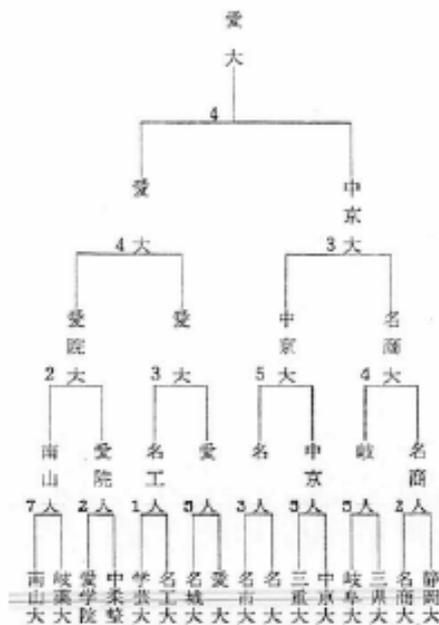
行事内容

- 1月22日 第8回東海学生柔道冬季優勝大会
- 5月27日 第8回東海学生柔道夏季優勝大会
- 5月28日 第4回東海学生柔道別段選手権大会
- 6月18日 第10回全日本学生柔道優勝大会
- 6月25日 第2回東海学生柔道連盟対大阪学生柔道連盟定期対抗試合
- 10月29日 第2回東海・北信越・関東学生柔道連対抗優勝大会
- 11月4日 第13回全日本学生柔道東西対抗試合
- 11月5日 第13回全日本学生柔道選手権大会
- 12月17日 第9回東海学生柔道冬季優勝大会

第8回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和36年1月22日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 中京大学



- 名工大 0-5 学芸大
- 一の釘 (返し) 〇 深津
 - 加藤 (出足) 〇 加藤
 - 戸松 (返し) 〇 織田
 - 戸松 (背負投) 〇 池田
 - 岩田 (大外落) 〇 池田
 - 岩田 (返し) 〇 鈴木
 - 森田 (釣込腰) 〇 鈴木
 - 吉川 (合せ技) 〇 犬塚
 - 二京 (引分) 〇 松
 - 大將殿で名工大勝 (引腰)

愛大 (3人残して愛大の勝)

決勝戦

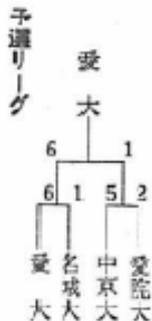
- 愛大 4-0 中京大
- 小水曾 (小外刈) 〇 河村
- 大根 (引分) 〇 長谷川
- 岩竹 (引分) 〇 木村
- 兼松 (引分) 〇 近藤
- 兼松 (釣込腰) 〇 青木
- 兼松 (背負投) 〇 山口
- 山本、榎本、古田以上4人残して愛大優勝

第9ノーン

- 先 名工大 2-5 三重大
- 吉村 (内股) 〇 内股
 - 小笠原 (背負投) 〇 背負投
 - 加藤 (腰) 〇 腰
 - 望月 (勢) 〇 勢
 - 寺尾 (勢) 〇 勢
 - 二宮 (勢) 〇 勢

4	3	2	1	
中京大	名工大	名工大	三田大	1
〇	〇	△	〇	2
〇	〇	△	△	3
〇	△	△	△	4
				順位
1	2	4	3	

決勝トーナメント



第8回東海学生柔道夏季優勝大会
第9回全日本当生柔道優勝大会
第4回東海学生柔道選手権大会

日時 昭和36年5月27日28日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 中京大学
第三位 愛知学院大学
名城大学

個人戦



- 先 中京大 6-0 名工大
- 近藤 (大外返し) 〇 大外返し
 - 岡口 (合せ技) 〇 合せ技
 - 山口 (支釣込足) 〇 支釣込足
 - 川本 (腰) 〇 腰
 - 青木 (勢) 〇 勢
 - 河村 (引分) 〇 引分
 - 長谷川 (勢) 〇 勢
 - 二宮 (勢) 〇 勢
 - 寺尾 (勢) 〇 勢
 - 宮 (勢) 〇 勢

- 先 名工大 5-0 名工大
- 岩島 (大外刈) 〇 大外刈
 - 小原 (腰) 〇 腰
 - 田中 (勢) 〇 勢
 - 光松 (腰) 〇 腰
 - 飯田 (勢) 〇 勢
 - 島本 (勢) 〇 勢
 - 間瀬 (勢) 〇 勢
 - 二宮 (勢) 〇 勢
 - 宮 (勢) 〇 勢

第9回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和36年12月17日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 中京大学
第三位 愛知学院大学
静岡大学

決勝

愛大 2-0 中京大
(背負投) ○ 朝倉

藤元 ○ (引外刈) 河村
石田 ○ (引分) 宇賀
岩元 ○ (引分) 長谷川
山本 ○ (引分) 川本
小木曾 ○ (大内返) 近藤
" ○ (引分) 木村

2回戦

(勝) 静岡大 (1人残) 愛大
中京大 (5人残) 南山大
愛大 (6人残) 三重大
愛大 (2人残) 中柔整

一回戦

(勝) 静岡大 (代表戦) 名大
愛大 (2人残) 名大
中京大 (3人残) 名大
南山大 (5人残) 三果大
愛大 (7人残) 名大
三重大 (4人残) 岐大
愛大 (5人残) 名大
中柔整 (6人残) 岐大

昭和37年度

加盟校

一部 愛知大学
二部 愛知学院大学
中京大学
名古屋大学
名古屋商科大学
南山大学
名城大学
中部柔整専門学校
(特別参加)

愛知大学
愛知学院大学
中京大学
名古屋大学
名古屋商科大学
南山大学
名城大学
三重大学
三果立大学
(以上8校)

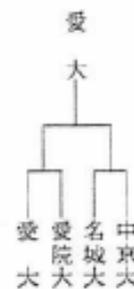
行事内容

5月26日 第9回東海学生柔道夏季優勝大会
5月27日 第5回東海学生柔道段別選手権
6月16、17日 第11回全日本学生柔道優勝大会
6月18日 第3回東海対大阪学生柔道定期大会
10月21日 第1回東北・関東・北信越・東海四学柔道対抗優勝大会
11月3日 第14回全日本学生柔道東西対抗試合
11月4日 第14回全日本学生柔道選手権大会
12月16日 第10回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和37年5月26日27日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 中京大学
第三位 名城大学
愛知学院大学

決勝トーナメント



予選リーグ

4	3	2	1	
城大	名工大	南山大	中京大	
△	△	△	○	1
△	△	○	○	2
×	×	○	○	3
△	×	○	○	4
3	4	2	1	順位

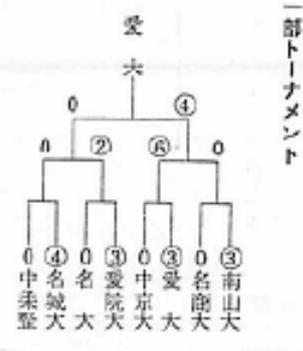
先鋒 小笠原 優 勢 ○ 杉浦
次 井戸 引 勢 ○ 佐藤
三 望月 跳 勢 ○ 佐藤
中 真弓 合 勢 ○ 佐藤
五 尾瀬 引 勢 ○ 佐藤
副 二宮 引 勢 ○ 佐藤
大 二宮 引 勢 ○ 佐藤

先鋒 小笠原 背 勢 ○ 掛札
次 井戸 引 勢 ○ 掛札
三 赤尾 引 勢 ○ 掛札
中 真弓 引 勢 ○ 掛札
五 尾瀬 引 勢 ○ 掛札
副 二宮 引 勢 ○ 掛札
大 二宮 引 勢 ○ 掛札

第10回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和37年12月16日
場所 愛知県スポーツ会館

一部
優勝 愛知大学
準優勝 愛知学院大学
第三位 南山大学
名城大学



一部決勝戦

山元	藤元	岩元	貝元	愛大	4	0	愛学院
○	○	○	○	○	(合)	(合)	技
技	技	勢	返	分	腕	腕	分
○	○	○	○	○	○	○	○
佐藤	宮川	生川	横井	小島	今村	須村	須村

一部

愛知大学

岩竹	兼松	小曾	石田	脇田
章二	興一	英三	治三	治三
藤本	岩元	山元	貝元	後藤
功実	隆功	彦隆	司彦	司彦

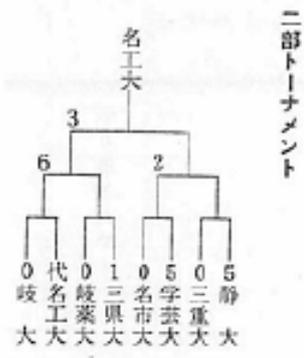
中京大学

長谷川	朝倉	青木	近藤	日置
優	昭太郎	昭太郎	昭太郎	昭太郎
河本	川本	北岡	宇賀	中村
相	相	相	相	相

二部

名古屋工業大学

優勝	名古屋工業大学
準優勝	愛知学芸大学
第三位	静岡大学
	県立三重大学



愛知学院大学

犬塚	安田	深津	横井	千原
信也	哲雄	菊夫	任夫	至任
清水	白井	桜井	青木	桑原
重之	義裕	茂法	昭法	亨法

岐阜大学

野田	米谷	常光	小川	小坂
彦彦	敏彦	一敏	通一	通一
小島	杉山	掛札	森川	小畑
洋	樹洋	捷三	信三	信三

●この時の対戦記録は残っていないが、不動のエース二宮孝夫三段の他、一年生に真弓、井戸、赤尾の参加もあり、見事に二部で優勝することができた。主将は築瀬(小笠原正純)である。

名古屋工業大学

二宮	木村	小笠原	山本
孝夫	正純	正純	正純
望月	渡久	井戸	赤尾
直樹	康夫	雅彦	真彦

三重大学

流石	小野	伊藤	玉田	森田
昇	昇	博	富	富
松本	中村	高木	松浦	河合
武	武	武	武	武

昭和38年度

加盟校

- 一部
- 愛知学院大学
 - 名古屋大学
 - 名古屋商科大学
 - 南山大学
 - 中京大学
 - 名城大学
- 二部
- 愛知学芸大学
 - 岐阜大学
 - 岐阜薬科大学
 - 静岡大学
 - 名古屋工業大学
 - 名古屋国立大学
 - 三重大学
 - 三重県立大学
- (以上7校)
- 中部委管専門学校
(特別参加)
- (以上8校)

行事内容

- 5月25日 第10回東海学生柔道夏季優勝大会
- 5月26日 第1回東海学生柔道団体重別選手権大会
- 6月15日 第12回全日本学生柔道優勝大会
- 6月30日 第4回東海対大阪学生柔道重別定期戦
- 11月9日 第15回全日本学生柔道東西対抗試合
- 11月10日 第15回全日本学生柔道選手権大会
- 11月17日 第2回東北・関東・北信越・東海四学柔道対抗優勝大会
- 12月15日 第11回東海学生柔道冬季優勝大会

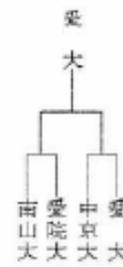
- 第10回東海学生柔道夏季優勝大会
- 第12回全日本学生柔道優勝大会東海予選
- 第1回東海学生柔道団体重別選手権大会

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

日時 昭和38年5月25・26日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 愛知学院大学
第3位 中京大学
南山大学

決勝トーナメント



予選リーグ

4	3	2	1	
愛大	中京大	愛院大	南山大	
	○	△	△	1
	○	△	△	2
	○	△	△	3
	○	△	△	4
				順位
1	3	2	4	

4	3	2	1	
南山大	愛院大	中京大	愛大	
	○	△	△	1
	○	△	△	2
	○	△	△	3
	○	△	△	4
				順位
1	4	2	3	

4	3	2	1	
愛院大	南山大	愛大	中京大	
	○	△	△	1
	○	△	△	2
	○	△	△	3
	○	△	△	4
				順位
1	4	3	2	

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

日時 昭和38年12月15日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 中京大学
準優勝 愛知大学

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

第11回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和38年12月15日
場所 愛知県スポーツ会館

- 一部
- 優勝 中京大学
 - 準優勝 愛知大学

- 二部
- 優勝 岐阜大学
 - 準優勝 愛知学芸大学

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

試合記録

4	3	2	1	
愛大	中京大	愛院大	南山大	
	○	△	△	1
	○	△	△	2
	○	△	△	3
	○	△	△	4
				順位
4	3	2	1	

一部決勝

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

二部決勝

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

- 先川森 一本背負 ○ 石田
- 次宮川 痛み分け ○ 日沼
- 二小島 合せ仗 ○ 山元
- 中佐藤 上四方面 ○ 藤谷
- 五生川 引分け ○ 藤谷
- 副加古 十字固 ○ 岩元
- 大新井 返し技 ○ 小木曾

昭和39年度

加盟校

一部 二部

愛知学院大学
愛知大学
岐阜薬科大学
静岡短期大学
大同工業短期大学
名古屋工業大学
名古屋商科大学
名古屋大学
南山大学
中部柔整専門学校
(以上7校)
(特別参加)
愛知学院大学
岐阜薬科大学
静岡短期大学
大同工業短期大学
名古屋工業大学
名古屋商科大学
名古屋大学
三重県立大学
名城大学
(以上9校)

行事内容

5月23日 第11回東海学生柔道夏季優勝大会
5月24日 第2回東海学生柔道体重別選手権大会
6月20日 第13回全日本学生柔道優勝大会
6月28日 第5回東海対大阪学生柔道連盟定期戦
11月7日 第16回全日本学生柔道東西対抗試合
11月8日 第16回全日本学生柔道選手権大会
11月29日 第3回東北・関東・北信越・東海国学柔道
12月14日 第12回東海学生柔道冬季優勝大会

第11回東海学生柔道夏季優勝大会
第13回全日本学生柔道優勝大会
第2回東海学生柔道体重別選手権大会

日時 昭和39年5月23日24日

場所 愛知県スポーツ会館

優勝 愛知大学
準優勝 中央大学
第3位 愛知学院大学

4	3	2	1	
岐阜大	名工大	名城大	中京大	C
△	△	△	○	1
△	△	○	○	2
△	○	○	○	3
○	○	○	○	4
4	3	2	1	順位

Cブロック

先鋒 名城大 3 — 1 名工大
次 山田 〇 〇
三全子 〇
中安本 引分
五芳井 引分
副岩崎 引分
大川崎 引分
木尾

先鋒 名工大 4 — 2 岐阜大
次 山中 〇
三赤尾 〇 〇
五池田 〇 〇
副海老村 〇
大木村 〇
先 長谷川 〇
次 中京大 〇
三河原 〇
大天野 〇
中北岡 〇
五松田 〇
副中本 〇
大川本 〇
先 長谷川 〇
次 中京大 〇
三河原 〇
大天野 〇
中北岡 〇
五松田 〇
副中本 〇
大川本 〇

第12回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和39年12月14日
場所 愛知県スポーツ会館

一部

優勝 愛知大学
準優勝 愛知学院大学
第3位 中央大学
名古屋大学

二部

優勝 名城大学
準優勝 名古屋工業大学
第3位 三重県立大学

一部決勝戦
愛大 2 — 2 愛学院
中野 (引分) 川藤
地頭所 (引分) 伊藤
坂井 (引分) 林川
河内 (優勢) 宮川
前原 (優勢) 佐藤
貝沼 (引分) 新井
山元 (引分) 新井

3	2	1	
学芸大	名工大	日大	
△	△	△	1
△	△	△	2
△	△	△	3
2	3	1	順位

3	2	2	
三重大	名城大	C	
×	△	△	1
△	△	×	2
△	×	△	3
2	1	2	順位

二部決勝リーグ

3	2	1	
名城大	名工大	三重大	
△	△	△	1
△	△	△	2
△	△	△	3
1	2	3	順位

一部最下位決定戦

岐大 ② — △ 南山大

一部二部入替戦

名城大 ③ — △ 南山大
(名城大は一部へ昇格)

昭和42年度

加盟校

一部 二部

- 愛知学院大学 愛知教育大学
 愛知工業大学 愛知工業大学
 岐阜大学 岐阜大学
 名古屋大学 名古屋大学
 名古屋工業大学 名古屋工業大学
 名古屋商科大学 名古屋商科大学
 名古屋大学 名古屋大学
 南山大学 南山大学
 名城大学 名城大学
 (以上9校)

- 中部柔整専門学校 (以上13校)
 三重大学
 三重県立大学
 日本福祉大学
 名古屋学院大学
 名古屋大学
 中部柔整専門学校 (特別参加)

行事内容

- 5月27日 第14回東海学生柔道夏季優勝大会
 5月28日 第5回東海学生柔道団体別選手権大会
 6月18日 第8回東海対大阪学生柔道定期戦
 6月26日 第16回全日本学生柔道選手権大会
 11月4日 第19回全日本学生柔道選手権大会
 11月5日 第19回全日本学生柔道東西対抗試合
 11月19日 第6回東北・関東・北信越・中国・東海五学委
 12月10日 第15回東海学生柔道冬季優勝大会

- 第14回東海学生柔道夏季優勝大会
 第16回全日本学生柔道優勝大会東海予選
 第5回東海学生柔道団体別選手権大会

日時 昭和42年5月27日・28日
 場所 愛知県スポーツ会館

- 優勝 中京大学
 準優勝 愛知学院大学
 第三位 愛知大学



4	3	2	1	
愛知学院	愛知大	中京大	名大	
⑥	⑥	③	△	1
△	△	△	△	2
①	①	△	△	3
△	△	①	△	4
△	△	△	△	順位
3	2	1		

3	2	1	
愛工大	名工大	中京大	
△	△	△	1
△	△	△	2
△	△	△	3
△	△	△	順位
3	2	1	

先次 中京大 6-0 名工大
 紙谷 引 近藤 本
 青野 引 矢野 本
 吉村 引 矢野 本
 竹内 引 矢野 本
 森内 引 矢野 本
 伊神 引 矢野 本
 小田 引 矢野 本
 大田 引 矢野 本

第15回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和42年12月10日
 場所 愛知県スポーツ会館

- 優勝 中部柔整
 準優勝 名古屋学院大学
 第三位 愛知工業大学

一部予選リーグ

3	2	1	
南山	名城	名工大	
△	△	△	1
△	△	△	2
△	△	△	3
△	△	△	順位
3	2	1	

一部決勝リーグ

3	2	1	
愛知	中京	名城	
△	△	△	1
△	△	△	2
△	△	△	3
△	△	△	順位
3	2	1	

最下位決定リーグ

3	2	1	
城大	名大	南山	
△	△	△	1
△	△	△	2
△	△	△	3
△	△	△	順位
3	2	1	

先次 愛工大 2-3 名工大
 成田 引 近藤 本
 山本 引 近藤 本
 平野 引 近藤 本
 林野 引 近藤 本
 土屋 引 近藤 本
 成瀬 引 近藤 本

一部予選リーグ

名工大 0-2 名城大
 吉本 (引) 長上
 近藤 (引) 前川
 室田 (引) 竹内
 辻谷 (引) 秋山
 守谷 (引) 秋山
 近藤、柳橋以上2人残して名城大勝

南山大 0-1 名工大
 伊神 (引) 那須
 可児 (引) 吉田
 早川 (引) 吉田
 上田 (引) 吉田
 佐久間 (引) 吉田
 徳田 (引) 吉田
 田中 (引) 吉田
 近藤残して名工大勝

昭和43年度

加盟校

- | | | | |
|----|---|----|--|
| 一部 | 愛知大学
愛知学院大学
岐阜大学
中京大学
名古屋大学
名古屋工業大学
名古屋商科大学
名城大学
(以上8校)
中部柔整専門学校
(特別参加) | 二部 | 愛知教育大学
愛知工業大学
岐阜薬科大学
皇学館大学
静岡大学
大同工業大学
中部工業大学
中日本自動車短期大学
名古屋学院大学
名古屋市立大学
南山大学
三重大学
三重県立大学
(以上13校) |
|----|---|----|--|

行事内容

- 5月18日 第15回東海学生柔道夏季優勝大会
- 5月19日 第6回東海学生柔道体育別選手権大会
- 6月15日 第17回全日本学生柔道優勝大会
- 6月30日 第9回東海対大阪学生柔道連盟定期戦
- 10月20日 第7回東北・関東・北信越・中国国・東海五大会
- 11月2日 第20回全日本学生柔道選手権大会
- 11月3日 第20回全日本学生柔道東西対抗試合
- 12月6日 第15回東海学生柔道冬季優勝大会

第15回東海学生柔道夏季優勝大会
第17回全日本学生柔道優勝大会
第6回東海学生柔道体育別選手権大会
第9回東海学生柔道連盟定期戦
第7回東北・関東・北信越・中国国・東海五大会
第20回全日本学生柔道選手権大会
第20回全日本学生柔道東西対抗試合
第15回東海学生柔道冬季優勝大会

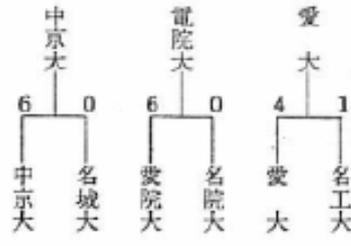
日時 昭和43年5月18日19日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 中京大学
準優勝 愛知大学
第3位 愛知学院大学

2	1
---	---

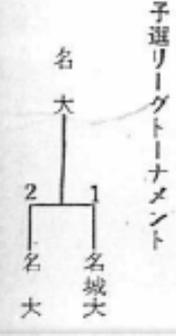
決勝リーグ

4	3	2	1	
中京大	愛学	名大	愛大	
①	△	△	△	1
⑤	①	①	①	2
②	△	△	②	3
△	△	△	△	順位
1	3	4	2	順位



敗者復活リーグ

3	2	1	
名院大	名城大	名工大	
○	○	△	1
△	△	△	2
△	○	△	3
2	1	3	順位



決勝進出トーナメント

- 愛知大学 4-1 名工大
先鋒 脇谷 背負
次井上
三田京 ○大外刈
中石垣 ○上四方
五山本 ○大内刈
副中野 ○合せ技
大諸山 ○合せ技
佐池吉久高樋本
能田田野原田

- 名工大 5-2 名市大
先吉田 ○横捨身
次高原 ○小外刈
三池田 手内股
中浜本 ○横四方
五西村 大外刈
副久野 ○小外刈
大福田 ○弘腰
加児山木伊石杉
藤鳥田村藤井木

- 中量級
優勝 青野(中京大)
準優勝 浜本(名工大)
三位 江上(名城大)
紙谷(中京大)
- 軽重量級
優勝 荒井(愛院大)
準優勝 天野(中京大)
三位 近藤(名城大)
榎田(名工大)

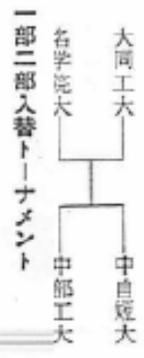
第16回東海学生柔道冬季優勝大会

日時 昭和43年12月8日
場所 愛知県スポーツ会館

- 一部
優勝 中京大学
準優勝 愛知大学
三位 愛知学院大学
- 二部
優勝 名古屋学院大学
準優勝 中部工業大学
三位 中日本自動車短期大学
大同工業大学

3	2	1	
名工大	電大	愛大	
△	△	○5残	1
△	△	○5残	2
△	○2残	○5残	3
3	2	1	順位

決勝



- 中部柔整 4-0 名工大
如合(内股) ○吉田
村井(背負投) ○加藤
村井(背負投) ○加藤
清原(背負投) 高本
清原(背負投) 高本
村雲(合せ技) ○樋田
伴庭、高原、藤田以上4人残して中部柔整勝

名学院 0—1 名工大
 岩瀬 ○ (小外刈)

岩瀬 (優勢) ○ 樋田
 久枝 (小外刈) ○ 吉田
 青山 (引分) ○
 長谷川 (引分) ○
 梅原 ○ (私巻込) 久野
 加藤 (引分) 池田
 代表戦 (引分) 本
 梅原 (僅差) ○ 本
 名工大勝
 (名古屋学院大学一部昇格ならず)

名工大 0—2 岐大
 高部 (大内刈) ○ 安江
 高原 (引分) ○
 吉田 (大外刈) ○ 川島
 久野 (体落) ○
 室 (支ツリ込技) ○
 〇 (大外刈) ○
 〇 (返し技) ○
 〇 (引分) ○
 〇 (引分) ○
 〇 (引分) ○
 狩野、堀田残して岐大

名工大 0—5 愛大
 吉田 (体落) ○ 石垣
 野瀬 (大外刈) ○
 鯨部 (内股) ○
 〇 (引分) ○ 石垣
 〇 (引分) ○ 血井
 〇 (小外刈) ○ 井上
 〇 (合せ技) ○
 池田 (合せ技) ○
 尾谷、清山、加藤、山本残して愛大

昭和44年度

加盟校

- 一部
 愛知大学
 愛知学院大学
 愛知工業大学
 岐阜大学
 中京大学
 名古屋大学
 名古屋工業大学
 名古屋商科大学
 名城大学
 (以上8校)
 中部柔整専門学校
 (特別参加)
- 二部
 愛知教育大学
 愛知工業大学
 皇学館大学
 静岡岡大学
 大同工業大学
 中部工業大学
 中日本自動車短期大学
 名古屋学院大学
 名古屋市立大学
 南山大学
 三重大学
 三重県立大学
 (以上12校)

行事内容

- 5月17日 第16回東海学生柔道夏季優勝大会
 5月18日 第7回東海学生柔道団体別選子権大会
 6月14—15日 第18回全日本学生柔道優勝大会
 6月22日 第10回東海対大阪学柔道交流戦
 10月19日 第8回東北・関東・北信越・中四国・東海・優勝大会
 11月1日 第21回全日本学生柔道選手権大会
 11月2日 第21回全日本学生柔道東西対抗試合
 11月30日 第17回東海学生柔道冬季優勝大会
 12月16—25日 東海学生柔道連盟15周年記念祝賀台湾清
- 第16回東海学生柔道夏季優勝大会
 第18回全日本学生柔道優勝大会東海予選
 第7回東海学生柔道団体別選子権大会

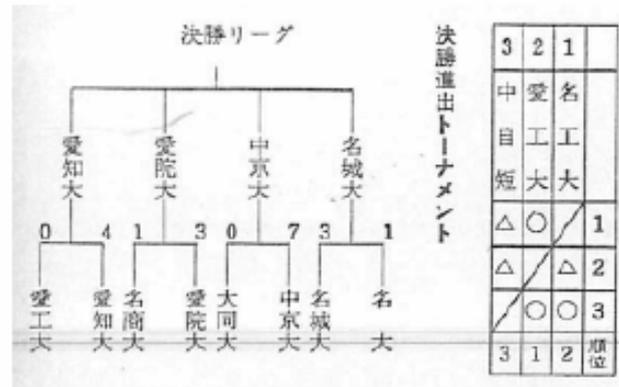
日時 昭和44年5月17日18日
 場所 愛知県スポーツ会館

優勝 中京大学
 準優勝 愛知学院大学
 第三位 愛知大学

2	1
---	---

決勝リーグ

4	2	2	1	
愛大	愛院大	名城大	中京大	
0	0	0	1	
①	③	④	②	
△	△	③	③	
	③	△	④	
				順位
3	2	4	1	



中自短 小外刈 ○ 阿部
 先藤 小外刈 ○ 佐野
 次常 背負投 ○ 久野
 中山 背負投 ○ 池田
 三山 背負投 ○ 今原
 五村 背負投 ○ 野瀬
 黒石 背負投 ○ 岩佐
 大瀬 背負投 ○ 佐

名工大 5 愛工大
 先安 合技 ○ 勝亦
 佐能 合技 ○ 山田
 三岩 合技 ○ 岩部
 中加 小内返 ○ 遠藤
 五野 大内返 ○ 高田
 久野 大内返 ○ 高田
 池田 大内返 ○ 高田
 大池 四方固 ○ 大角

